

建設業

株式会社  
ヤマダ・エスバ  
イエルホーム

大阪市北区

[主な業務]

住宅建設にかかる設計、施工など



女性管理職5人  
女性管理職比率2.1%

# 女性社員がつながり 働きがいのある会社に

女性にとって「働きがい」のある職場を作ろう。ヤマダ・エスバイエルホームでは、平成18年に「女性活躍推進チーム」が発足し、女性の意見を活かした商品開発や「くるみん」の取得など様々な取り組みが進められてきました。

女性目線の活動がどのようにに会社を変えていったのか。チーム発足当時から参加している安部文子さん、林三知代さん、藤井亜矢子さん、菊谷恵子さんと、人前でチームを支える山岸真唯子さんにお話を伺いました。



## 「女性活躍推進チーム」 ができた背景は？

**安部** 「女性活躍推進チーム」は部署を越えて社内改革を進めるプロジェクトの中から生まれました。女性が働きやすいだけでなく、働きがいのある会社になりたい。住宅メーカーでは男性が多いのですが、住宅を購入する際の決定権は女性を持っていることも多く、社内にいる女性社員をつないで会社全体でコミュニケーションを取れば、いろんなことができると思います。

**林** 活動の一つとして各部署から年齢も家族構成も違う女性社員が集まり、商品開発がスタートしました。女性ならではの感性を商品に活かし企業の価値を高めることを目標とし、自分たちの暮らしの中で一番身近で不満の多かった収納をテーマにキッチンから取り組みました。私は商品開発のリーダー役だったのでプレッシャーもありましたが、始めてみると、私だけでは絶対にできない優れたものができると感じました。

**藤井** 当時は結婚したばかりだったので、毎回こんなものがあつたら良いなと意見を出し合うのが楽しくて。ホワイトボードいっぱい書き出して、イメージを具体化しました。

**菊谷** 私は子育て真っ只中で、家が片付かないストレスがたまっていました。そこから収納のアイデアが生まれ、形になっていくのが面白かったです。

**林** 片付けたいものをどうするか。具体的なレイアウトのスケッチを作って「ああでもない」「こつでもない」と何



度もやりとりする中で様々なアイデアが生まれたり、たくさん発見があったりしました。試行錯誤しながらキッチン収納提案が完成し、さらにリビング、玄関、洗面の4つの収納シリーズがこの活動から生まれました。

## 商品の反応はいかがでしたか。

**林** 新しい展示場に私たちの収納プランをセットして営業に見せた時、最初の反応はイマイチだったと思います。ところが、お客様の反応がすごく良かったんです。この収納提案があることによって、お客様と営業の話が弾むきっかけになると、次第に評価されるように。新築の契約で採用されるだけでなく、リフォームの現場にも広がっています。

**菊谷** 住宅祭というイベントでは収納コーナーにたくさんの方が来られました。「これ便利ね」と引き出しを試さ



れるのを見て、自信につながりました。**藤井** 男性と女性では考え方が違います。家にいる時、女性は子どもと会話をしながらアイロンがけしたり、テレビを見ながらメイクをしたり、同時にいろんなことをしたい。だから「家事コーナー」ではなく、リビングにアイロンや化粧品を置く収納スペースが欲しいんです。最初は女性社員が集まって何